平成２０年度認定（№５２）

農業名人

りんご名人　北原（きたはら）　節夫（せつお）

昭和３３年生まれ　上伊那郡箕輪町在住

高い技術力で高品質リンゴの生産

父親の代からナシ等の果樹を中心とした専業農家であったが、高校を卒業後、民間企業に就職した。３年間をサラリーマンとして過ごしたが、家の農業を継ぐことを決意し、果樹の栽培技術を習得するため、長野県農業大学校果樹研究課へ進学し、昭和56年に就農し、果樹専業農家として現在に至っている。

就農当時から研究熱心であり、農業雑誌等で紹介される農業資材等で興味のあるものは自ら試し、いいものは積極的に取り入れている。こうしたことから、資材メーカーとのつながりもあり、新しい技術の情報もいち早く入ることから、農業者からの信頼も厚く、箕輪町の果樹振興に大きく貢献している。

また、個性ある商品作りを目指し、ニュージーランドへ２回、韓国へ１回海外の農業を視察し、研究を重ねるなど、その高い向上心には定評がある。

このように、日々生産技術の向上を図っていることから、生産されるリンゴの品質は高く、県の「うまくだコンクール」では、平成６年と15年の２回、最高位である農林水産大臣賞を受賞したほか、農林水産省生産局長賞を３回、長野県知事賞を２回、長野県経済連会長賞を２回受賞している他、全国コンクールでも金賞を受けるなど、全国を始め、県、上伊那での各種コンクールで14回もの受賞経験があることからも品質の高さは折り紙付きである。

生産物は、贈答を中心とした独自の販売ルートで販売しているが、一部を直売所へも出荷しており、消費者から直接声を聞くなど、合理的な経営感覚を持って絶えず品質管理を行い、消費者ニーズへの敏感な対応により、強い信頼を得ていることから、贈答の依頼は同じ人から毎年のように注文がある。

果樹栽培は、リンゴを約１ha、ナシを60ａ栽培しており、リンゴにおいては、10年くらい前から「新わい化」栽培を導入し、地域では先進的な取り組みを行っている。

また、コンヒューザーの導入や、牛糞堆肥や稲わら、バガス堆肥を投入し土づくりに努めている他、交配にミツバチを利用するなど地域と一体となった技術にも先導的に参加している。

経営は、本人夫妻と父母、子どもたちの３世代７人で一丸となって取り組んでいるが、後継者に経営を継いでもらうためには、魅力のある農業を行っている必要があり、そのために、特に、「販売方法」に工夫をしている。